



なんも無い町は宝の山だった!?

大洲市地域おこし協力隊

小泉 信二



地域おこし協力隊になった!

「帰省するたびに活気のなくなる故郷を元気にしたい」そう思ったのが、地域おこし協力隊を目指したきっかけです。高校卒業後、県外の大学へ進学するため故郷大洲市を離れました。卒業後もそのまま県外で就職し、イベントディレクターとして働き、その後は不動産業、教育業と職を変え、気が付けば故郷を離れて23年が経ち、40歳になっていました。そんな時、大洲市が地域おこし協力隊を募集していることを知り、「40歳を過ぎたおっさんは採用されんדר?」と、思いながら応募した結果、2017年4月1日、Uターン協力隊として大洲市河辺地域に赴任することになりました。

河辺町にやって来た!

河辺町は平成17年1月11日に大洲市と

合併した3方を1000m近い山々に囲まれた地域です。私は大洲市出身ですが、河辺町は実家から車で1時間ほどかかり、私にとって未知の場所でも不安もありました。ただ、地域の方たちとは早い段階でいろいろとお話をする機会があり不安は和らぎましたが、「よう、こんにちはなんも無いとこ来たの」「ここはどん詰まりじゃけん、何しても無理じゃわ」などと、悲観的な言葉をたくさん耳にし、「ここは、負け犬根性の吹き溜まりかっ!」と感じていました。しかし、河辺町の良いところをたずねると、みんな笑顔でいろいろなことを教えてくれ、「本当はこの町のことが大好きなんだ」と知ったとき、自分はここで頑張っつていこうという覚悟ができました。

最初のミッション!

「町内全戸あいさつ回り」が最初のミッションです。約3か月間をかけて全戸訪問しました。町内をよく知り、町

民の方に自分の存在を知ってもらおうという点で、このミッションは非常に効果的でした。町民の方のお話を早い段階で聞くことができたのも、このミッションがあったからだと思います。

本来のミッション(1)

私の本来のミッション(1)は、地域おこし団体河辺の未来を考える会での活動です。同団体は現在、農林水産省の農山漁村振興交付金を受けているため、その活動内容は多岐に及びます。その中でも印象深いのは、地元住民・移住者の雇用の場を創出するため、特産品を開発・販売し、その加工場をつくるというプロジェクトです。昨年からは現在も進行



みぎゃんといっしょ

中で、既に3種類の特産品が開発・販売の段階まで進んでいます。現在も町内にある山菜や、ていれぎ、クレソンといった珍しい食材を使った特産品をはじめ、山の恵みを使った特産品を開発しており、販路の拡大にもチカラを入れています。

本来のミッション(2)

本来のミッション(2)は、宿泊施設河辺ふるさとの宿の営業・情報発信等のお手伝いです。この施設は1988年に廃校になった旧大伍小学校を活用して造られ、四季折々の景観が臨め、BBQや川遊びが楽しめる、自然を体感できるすばらしい施設です。しかし、このような施設が河辺町内にあることを私は全く知りませんでした。現在でも市外のみならず、市内の方でもこの施設を知らない方が多いと思います。そのような状況を改善するため、まずはインターネットのサイトやSNSで情報の発信を行いました。また、町内で採れる山菜や、野菜などを使った食のイベント、ホテルなどの自然を楽しむイベントを開催し、県内各地から観光客を誘致することで知名度の向上に取



東京での販促活動

り組んでいます。



河辺町交流プラザオープンイベント

残り1年、活動目標！

河辺町には日本では珍しい屋根付き橋が八つもあります。また、水の流れる様子を上方・下方・正面の3方向から眺めることのできる、世界でも珍しい滝もあります。河辺ふるさとの宿に限らず、このような観光面についての情報も発信されています。今後町外には知られていないたくさんの情報をどんどん発信して、河辺町の魅力アップに取り組みしていきます。



移住相談会

また、自然が豊かな河辺町で山や川を使った自然体験型ツアーや、リス、キツネ、ムササビ等の野生動物見学ツアーを実施し、グリーン・ツーリズムの盛んな地域になるようにも取り組んでいきます。

河辺町は食材だけでなく、観光面でも多くの資源が人知れず眠っている宝の山です。地元の方たちと協力してその宝の山を掘り起こし、多くの方に河辺町について知ってもらい、観光客には「いつか行ってみたい」、地元住民の方には「ずっと住み続けたい」と自信を持って言ってもらえる場所に近づけることが、残り一年間の任期となった私の活動目標です。